

時代とともに歩む宿

北海道・小樽市【越中屋旅館】

【記事投稿者：代表取締役：上谷 征男】

札幌から 40 分、右手に広大な日本海を眺め辿り着く小樽は、テレビドラマ・小説の舞台となることも多く、毎年 700 万人程の観光客が訪れる観光都市です。

三方が山、一方が海という恵まれた自然環境。古き良き歴史を刻み込んだ数々の史跡、石倉倉庫群や運河の佇まいは、小樽が今日に至るまで幾多時代の盛衰とともに変貌を遂げてきた証であり、訪れる人の郷愁を誘う魅力のひとつです。



J R 小樽駅よりほど近く、観光のメインスポットが周囲に存する景観地区に、明治 10 年創業の越中屋旅館があります。

江戸時代末期に富山県から移り住み、当時は廻漕問屋を営んでいた初代が、かつて「北限の港」として北前船の出入りや北海道開拓を担う屯田兵の来道で賑わったこの地で、彼らに自宅の一室を一晩提供したのが旅館開業のきっかけとなります。



これより今日に至る 130 余年、越中屋旅館は小樽の歴史とともに歩み、旅館を訪れるお客様の形態もこの地の世相と反映し変化を遂げて参ります。

屯田兵、北前船の商人。終戦直後は三井鉱山などの石炭関係。その後は繊維関係、漁業・魚卸し関係、製菓会社、そして現在の観光。商用で訪れる人が多かったのは、小樽が元来、商都として栄えてきた証であります。





特に、明治後期から昭和初期にかけての小樽は、日本の金融・経済を支える都市のひとつとして存在し、旅館のある色内地区には日本銀行、大手都市銀・地方銀の本店支店、商社、海運、大商店が建ち並ぶ「北のウォール街」と言われ名を馳せた地区でもありました。これら時代の名残は、冒頭で記しました通り、今も街のあちこちでご覧いただけます。

越中屋旅館は開業以来二度の改築を経て、現在の建物は平成6年に一新しました。安全面・衛生面の配慮から近代的な設備とはなりましたが、一部、玄関右手の現在大広間として使用している部屋は、昭和17年福井県から移築した書院造りによる「庄屋」の部屋です。改築時大切に保存したいと完全移築したこの部屋は、昭和17年に旧宮家梨本宮が滞在なさった際に特別室としてご用意した一室で、今も昔と変わらぬ端正な純和風の佇まいでお客様をお迎えしております。



近年、来訪者の多くが観光にシフトされた小樽において、越中屋旅館を利用されるお客様の形態も国内はじめ海外からの観光目的が主流となっております。旅館を起点に小樽運河、煉瓦通り等の主要な観光スポットを徒歩で巡れる立地条件の良さはアピールのひとつだと自負しております。

観光を楽しんだ後は、お部屋でお食事をご提供いたします。食材豊富な北海道にあって、特に小樽は一年を通じて地場産近海産の魚介にも恵まれた地域です。伝統料理にアレンジを加えた和食膳。「美味しいものを食べてもらいたい」素直な想いを込めた料理は、地元の人もご利用に訪れます。何度となく繰り返し培ってきた新しい出会いと懐かしい再会を、これからも小樽とともに歩み努めて参ります。昨今、時代の移り変わりは目まぐるしさを増します。ただ、お客様をお迎えする気持ちは今も昔も変わることはありません。



北海道 小樽市

越中屋旅館

〒047-0031

北海道小樽市色内町1丁目8番12号

Tel : 0134-25-0025